

新潟県リソント診断士会発足

会長に丸山久一 長岡技術科学 大学副学長

新潟県のコンクリート診断士58人で組織する「新潟県コンクリート診断士会」が10月31日に発足した。新潟市の万代シルバートホテルで同日開催した設立総会で、会長に長岡技術科学大学副学長の丸山久一教授、副会長にナカノアイシシステムの吉田弘企画部長、ダイアテックの伊藤司郎社長をそれぞれ選任した。



同会は今後、診断技術の普及と向上などを通して、コンクリート構造物の維持管理・長寿命化に貢献するとともに、診断士の社会的評価と地位の向上に努める。主な事業としては、診断技術の講習会や研修会、現場見学

会などを計画している。顧問には地濃茂雄新潟工科大学教授、加藤大介新潟大学教授、佐伯竜彦新潟大学教授、下村匠長岡技術科学大学准教授、岩波基長岡工業高等専門学校准教授が就任した。総会で就任あいさつに立った丸山会長は「診断士制度発足以前からJCI（日本コンクリート工学協会）の診断士準備委員会の役員を務めていた関係もあり、このたびは

長をお引き受けした。今後は会員間の技術交流や情報の収集・提供を積極的に行うことによって、診断技術の発展と向上を図り、診断士の社会的認知と地位の向上に努力していきたい」と述べた。総会后、丸山会長が「コンクリート診断士の現状と将来」と題して基調講演を行い、「診断士資格認定取得者は今年度でほぼ7千人に達した。コンクリート構造物の維

持補修や診断技術が今後一段と重要になってくるが、構造物の診断技術はまだ本格的にスタートしたばかりだ。その意味では最新の技術情報をいち早く得る必要がある、数多くの診断経験を積むことも重要だ」と語った。